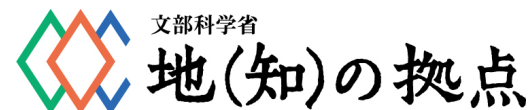


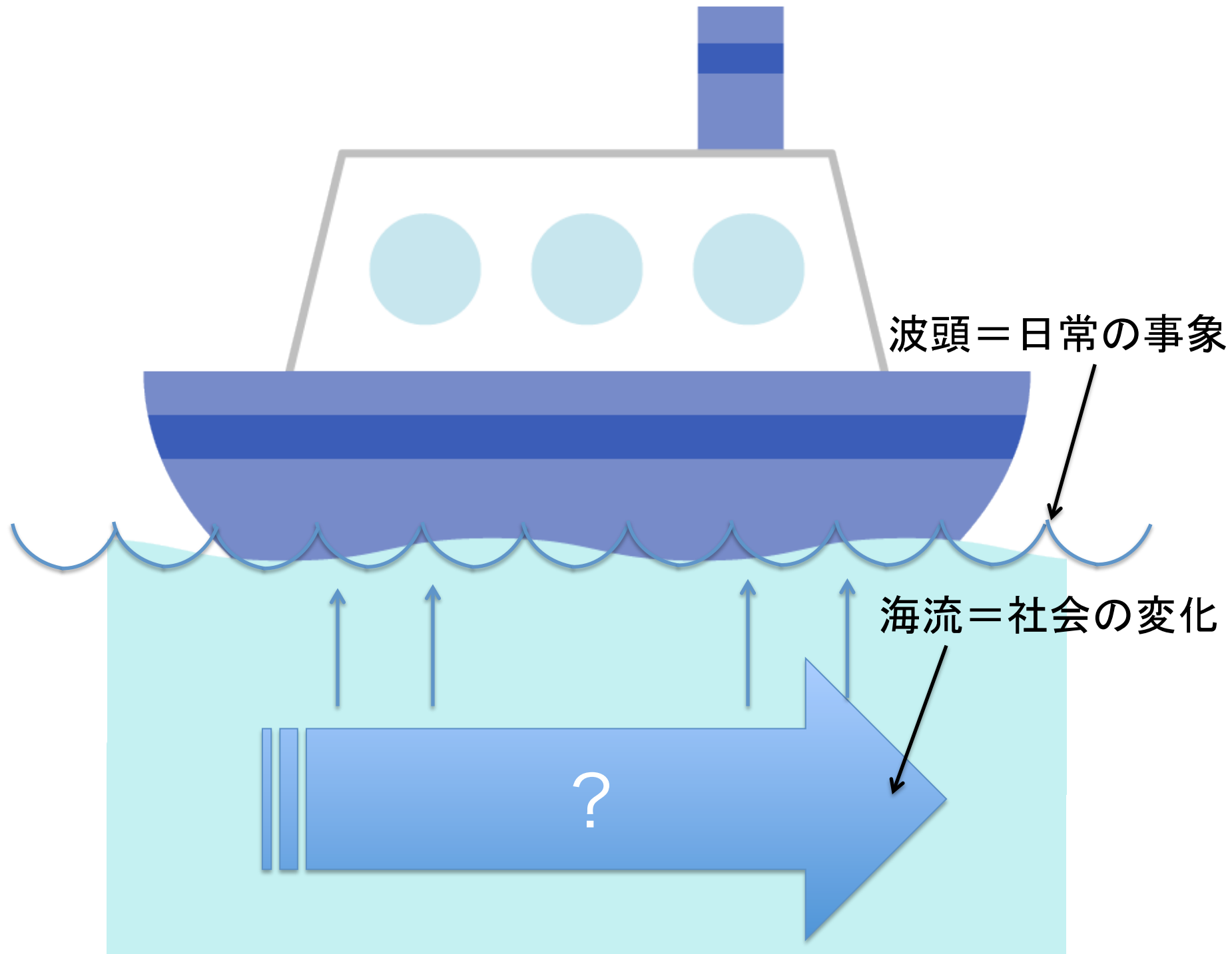
自分で考える「世渡り力」の磨き方講座

＜あなたの知らない、環境に繋がる、生活行動＞

第4回 社会学で、生活を読みとく

講師： 横浜市立大学 准教授 渡會 知子





自分で考える「世渡り力」の磨き方講座

＜あなたの知らない、環境に繋がる、生活行動。＞

ミニマリスト、防災士、山岳ガイド、社会学者、それぞれの視点で、生活を変えてみる。

知らぬ間に、「世渡り力」が磨かれ、ECOな環境行動に変わっていく。

1 ミニマリズムで、生活を変える。

日 時：平成 28 年 6 月 2 日（木）18:30～20:00

さ さ き ふみお

講 師：佐々木 典士（中道ミニマリスト／編集者）

捨てる技術

災害への備え

2 楽しい防災で、生活を変える。

日 時：平成 28 年 6 月 9 日（木）18:30～20:00

た な か みさき

講 師：田中 美咲（一般社団法人 防災ガール 代表）

3 山岳ガイド視点で、生活を変える。

日 時：平成 28 年 6 月 16 日（木）18:30～20:00

か な い あさみ

講 師：金井 麻美（山岳ガイド）

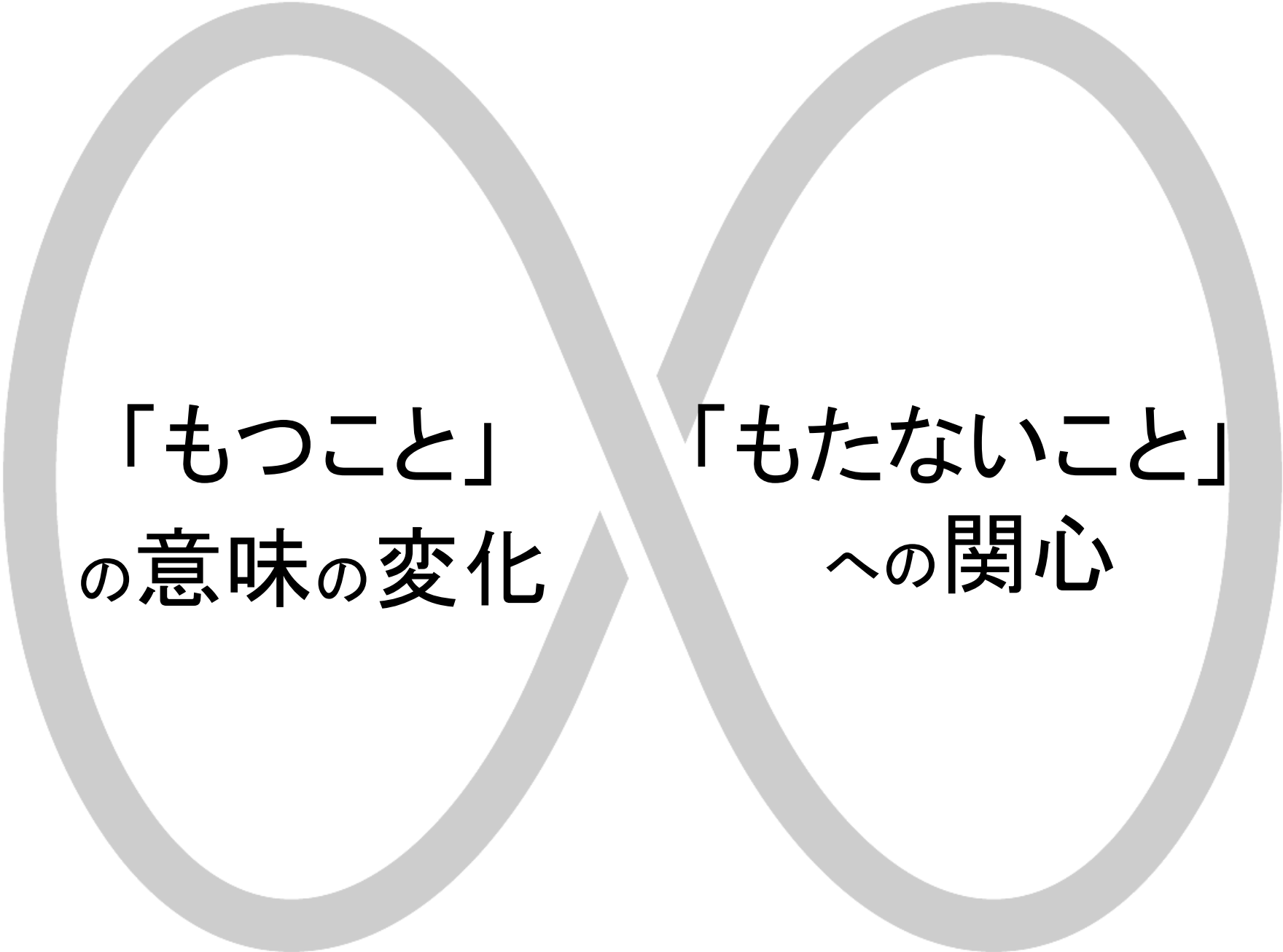
シンプルに生きる

4 社会学で、生活を読みとく。

日 時：平成 28 年 6 月 23 日（木）18:30～20:00

わ た ら い と も こ

講 師：渡會 知子（横浜市立大学国際総合科学群 准教授）



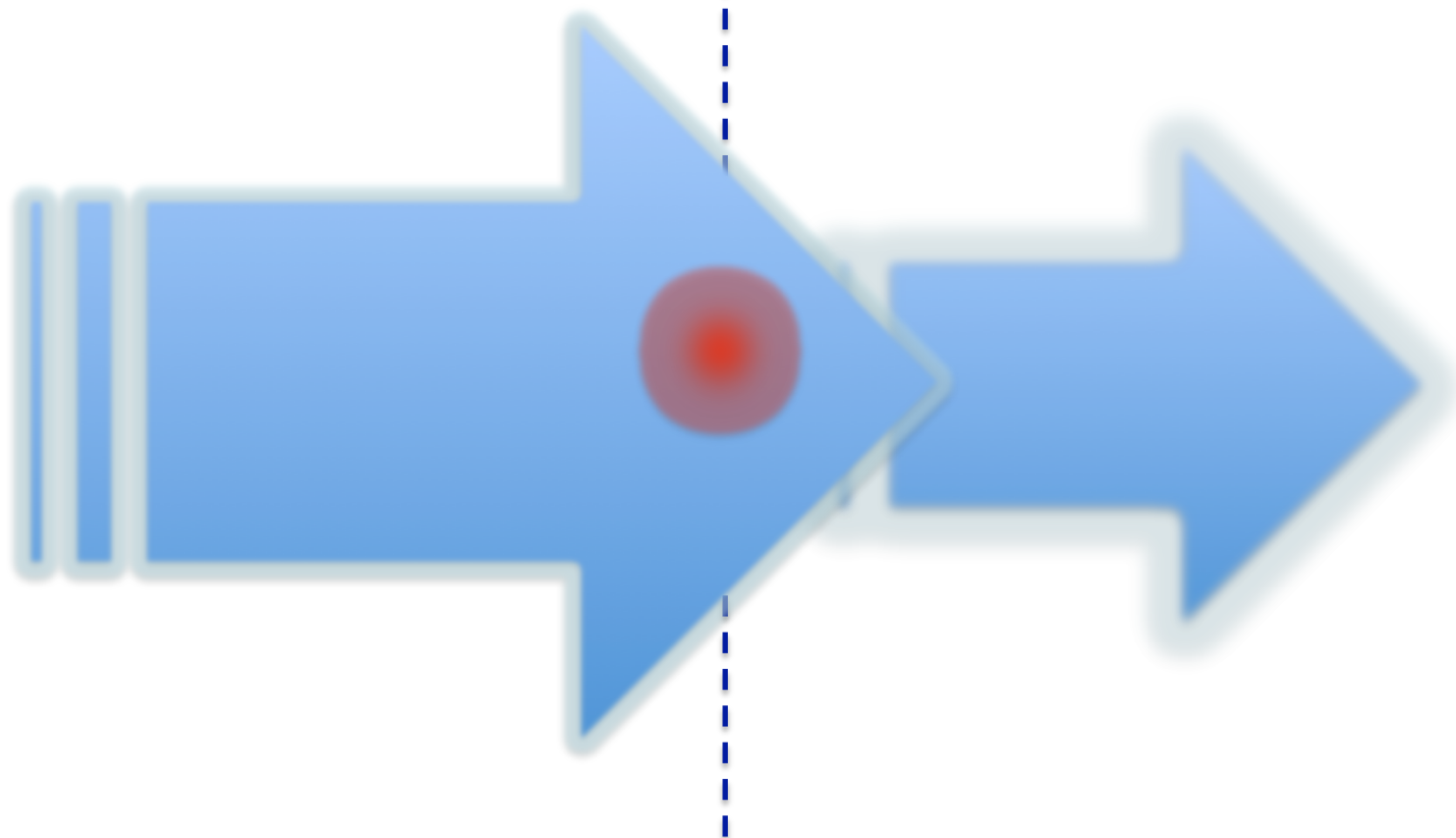
「もつこと」
の意味の変化

「もたないこと」
への関心

(これまで)

いま

(これから)



すでにおきている変化 ・ これからおこす変化

近年、ふだんの生活で
変わったなと思うことはありますか？

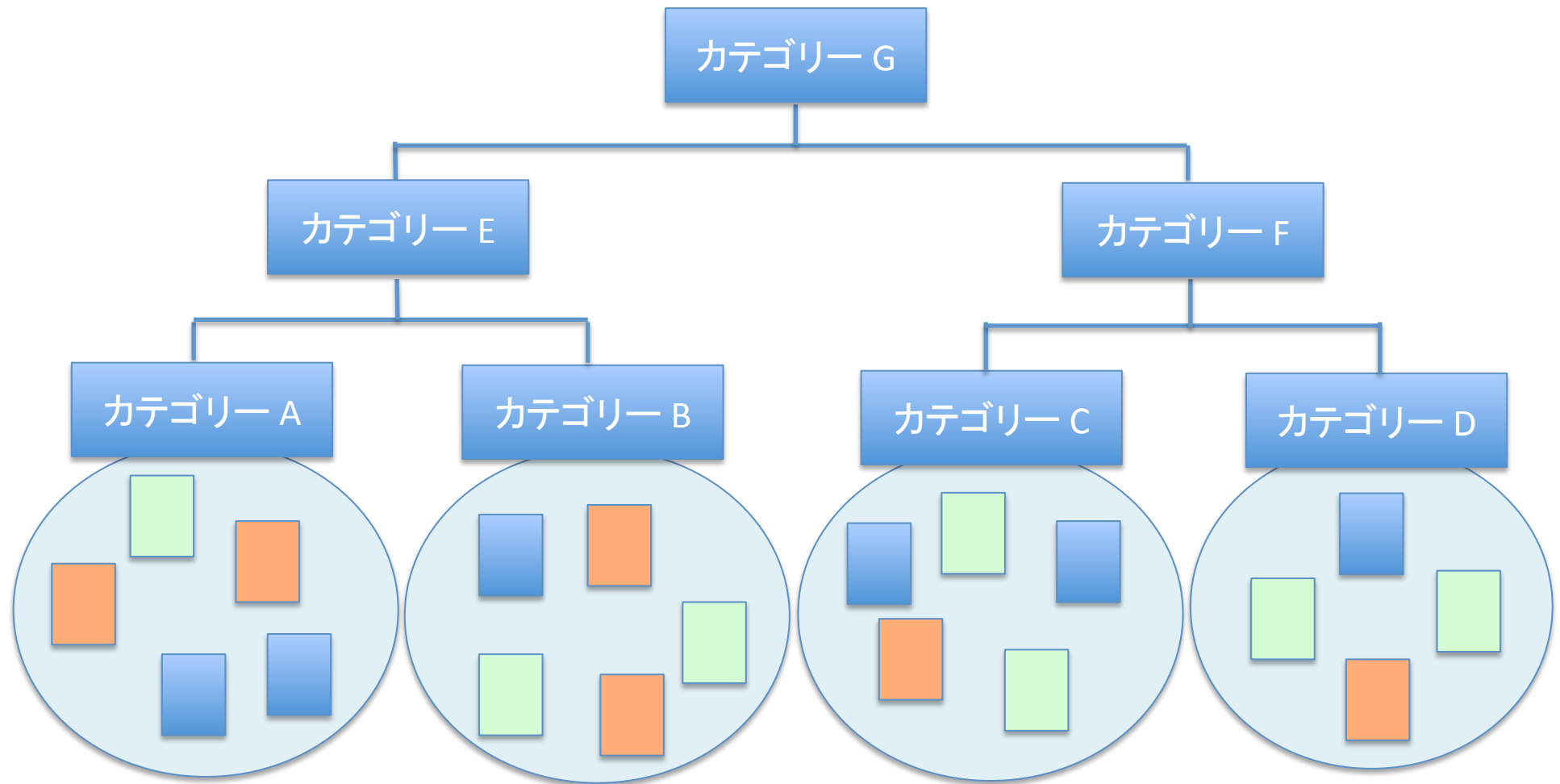
モノを買うときに意識するようになったこと

「こういうふうに変えたら暮らしがちょっと豊かになった」
と思うこと

これからやってみたいこと、いま興味のあること

共通点がありますか？

似ているもの同士をまとめて、名前をつけてみてください



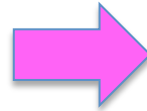
※モノの共通性ではなく、コト(意味)の共通性に注目してください

スPEND・シフト

(消費の(spend)転換(shift))

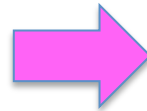
～「より多く」から「より良く」へ～

ただ安く買うより



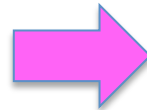
地域が潤うようにお金を使う

モノを手に入れるより



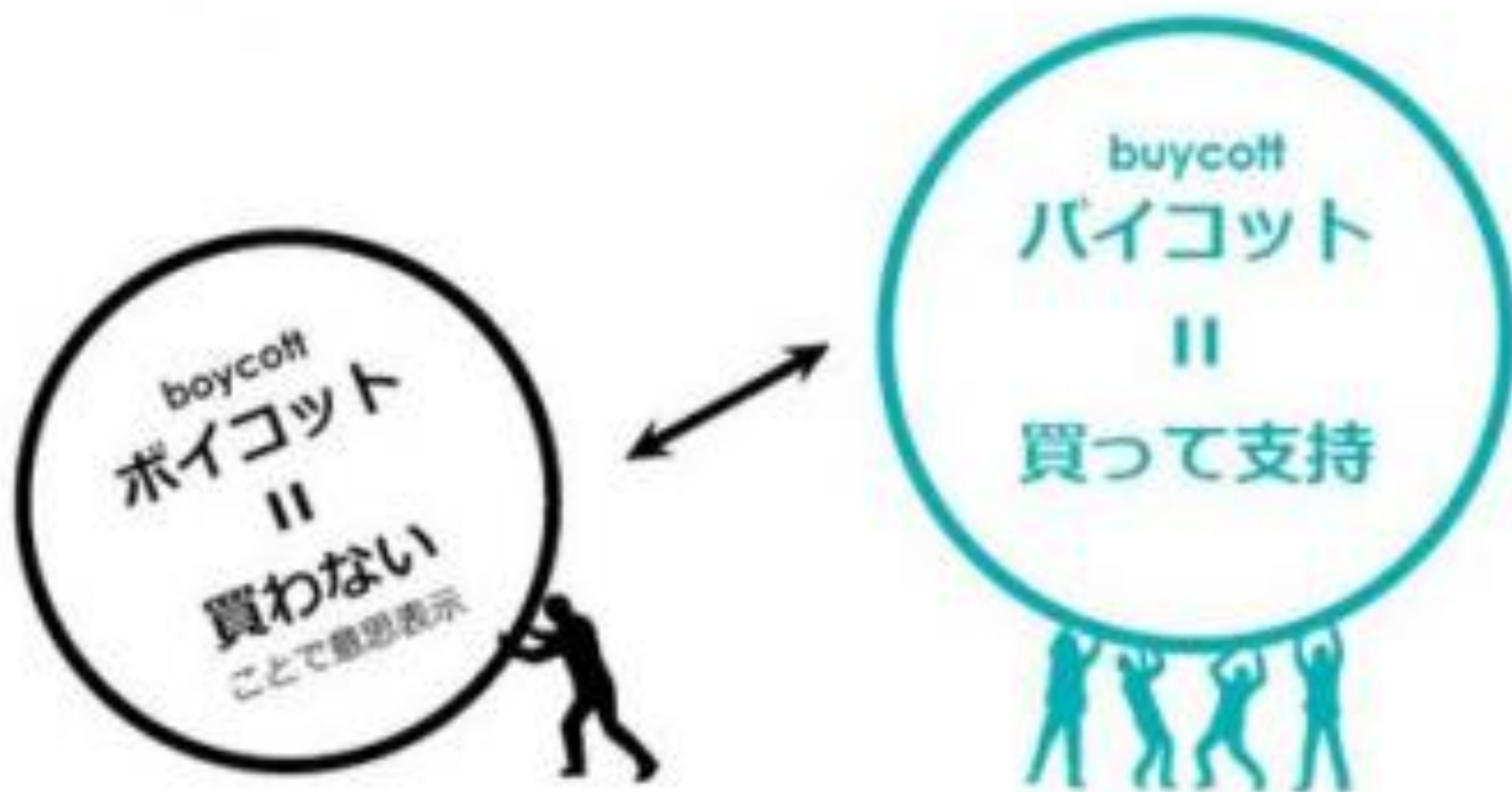
絆を強めるためにお金を使う

有名企業でなくても

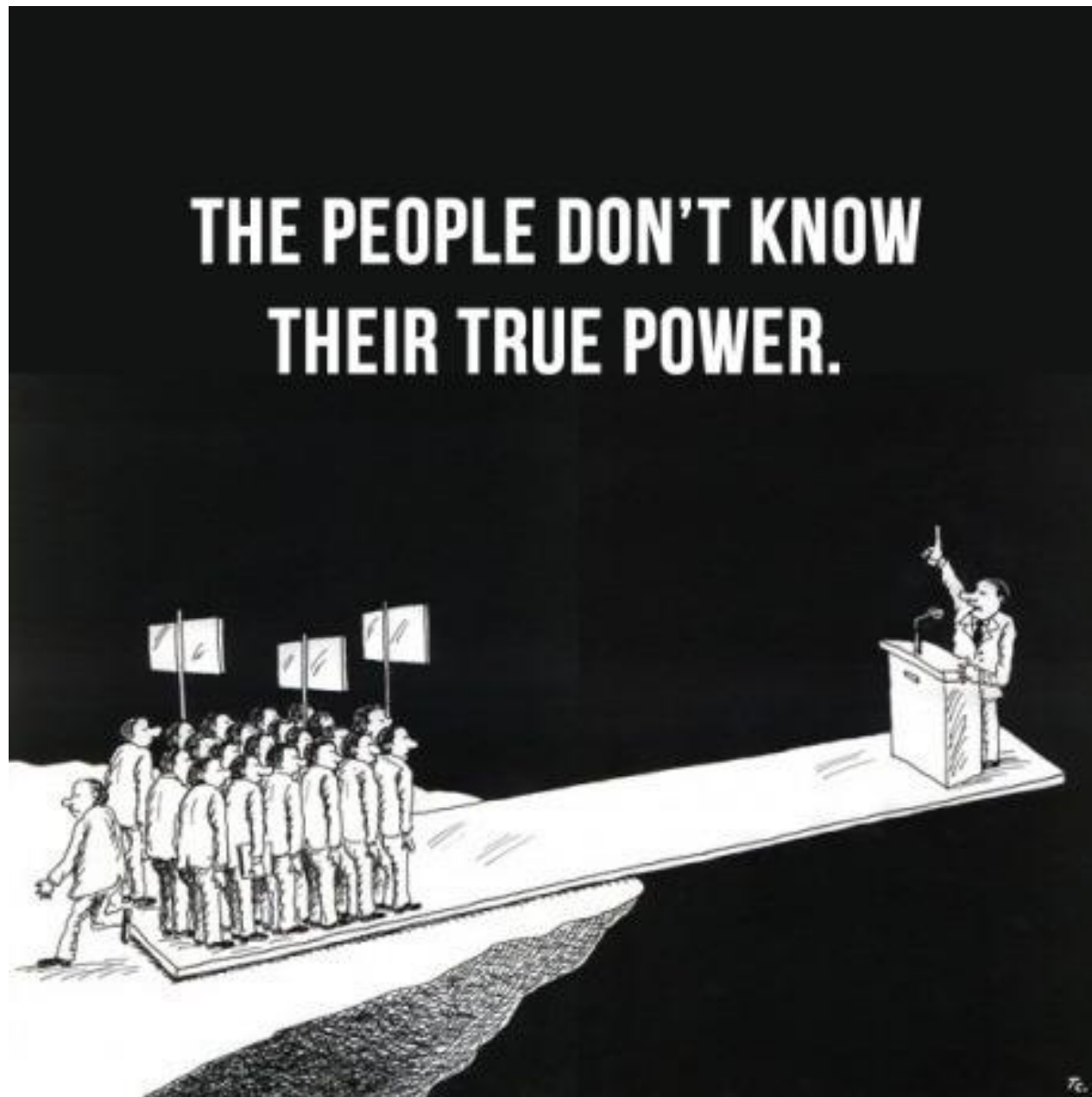


応援したい企業 から買う
(信頼できる企業)

「お金の使い方をおとして、価値観を表明する」



「消費は、支払いをとおした、投票行動」



変化の背景①

消費社会＝無限の欲望の喚起

欠乏から差異へ

「成長とは豊かさである」?

1955年 → 2000年

GDP 7.6倍

GPI 2.4倍

※GIP=Genuine Progress Indicator(真の進歩指標)



なんとなく、クリスタル

田中康夫



新潮文庫

モノ＝記号の消費
1981

ほしいものが
ほしいわ

モノの飽和
1988

感動体験に財布開く

オリエンタルランド社長
上西京一郎氏に聞く



うえにし・きょういち
う 1958年(昭和33年)
れ。東京都出身。80年
文章、オリエンタルラ
人社。2009年4月から現

商品重視の消費心理に変化

モノより思い出
2012

<三つの「ない」>
限定不能
帰責不能
保障不能

変化の背景②

リスク社会

技術の高度化
「にもかかわらず」生じたのではなく、技術が高度化した「からこそ」生じたリスク

新しいリスク

原発事故、薬害、残留農薬、
遺伝子組み換え作物等

II

成長の帰結

産業社会的・福祉国家的リスク

失業、疾病、労働災害など
統計的に計算可能・集合的に保険可能

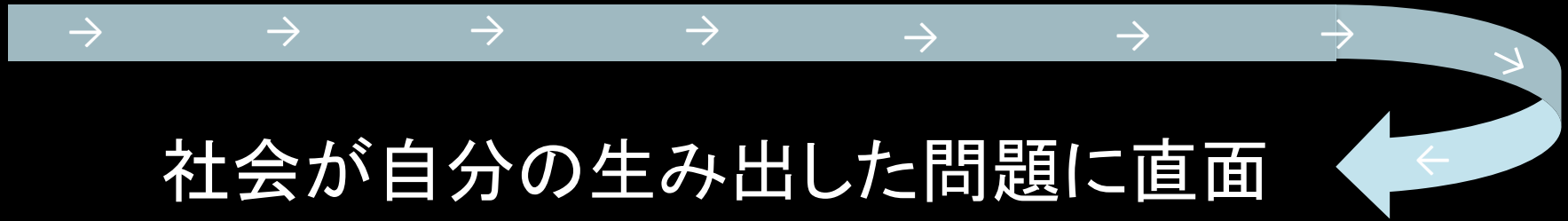
伝統的リスク

航海、遠隔地貿易に由来
リスクと報酬の帰属先の一致、「あえて冒す」リスク(riscare)



ノイラートの船に乗って ～再帰性の時代～

現代



社会が自分の生み出した問題に直面

「もっと成長を」「もっと拡大を」の先に
根本的な問題の解決は・・・ない？

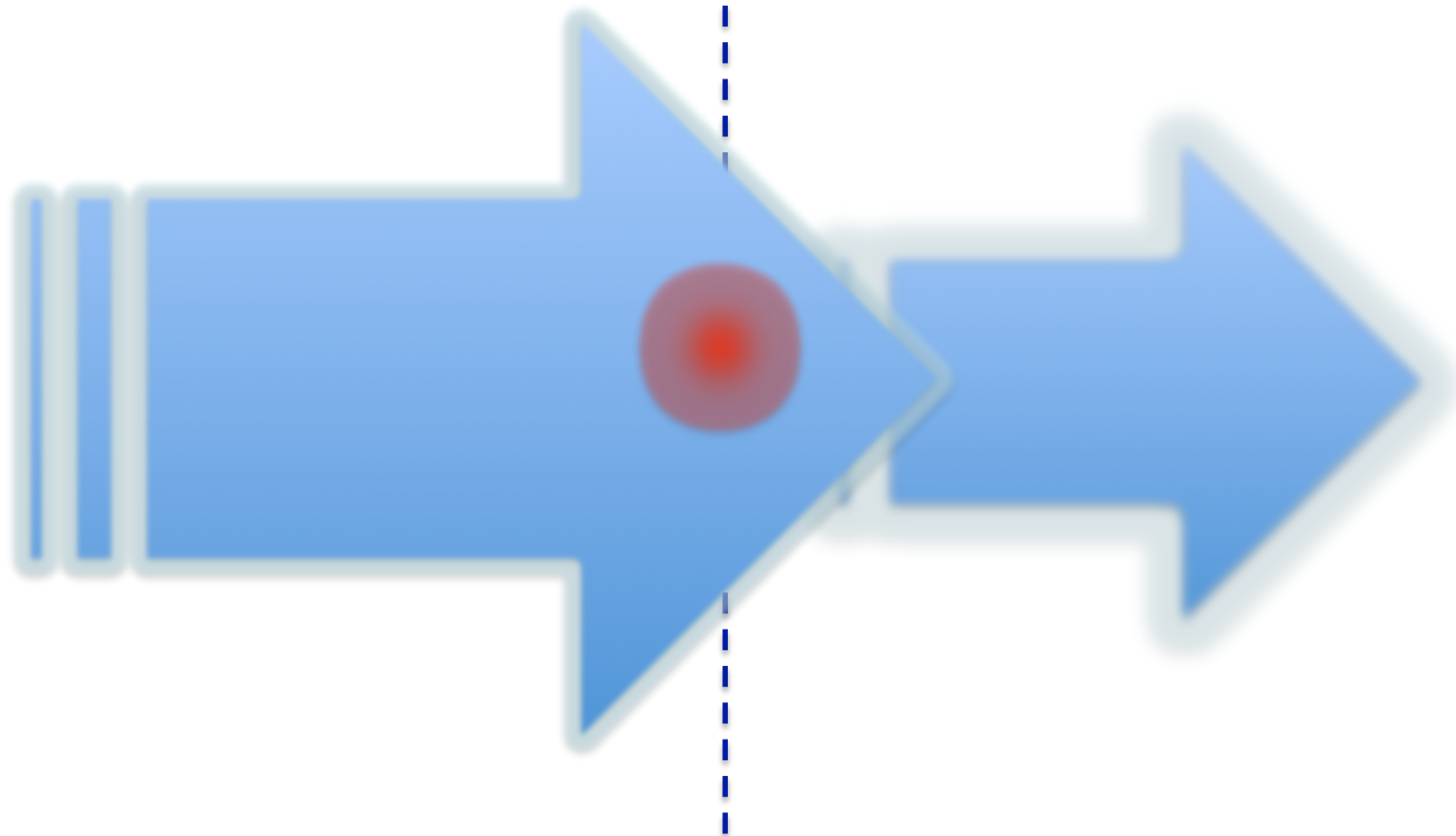


手もとにあるものを再定義、再利用、再発見していくこと

(これまで)

いま

(これから)



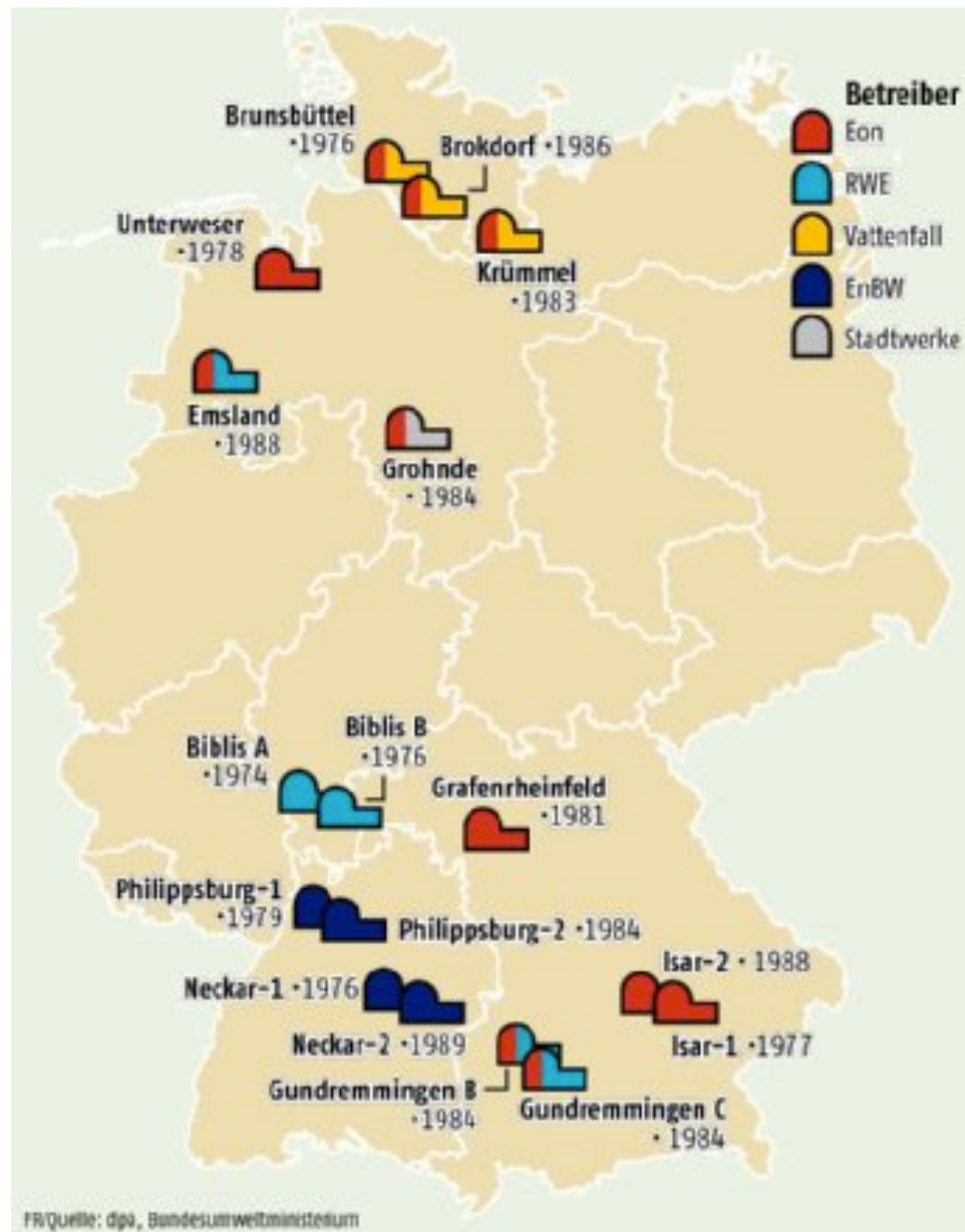
不確かな未来の、確かな兆し

ドイツのエネルギー転換 (Energiewende)



なぜ可能だったのか?
どんな問題はあるのか?
これからどうなるのか?

原発17基 2022年までに段階的に停止



脱原発 ～ なぜ可能になったのか

- チェルノブイリの記憶
- 緑の党の存在
- 2大政党制の機能
- リスク意識の高さ(「残余リスクをゼロにする」)
- 倫理委員会の答申(「次世代に負の遺産を残さない」)
- 原発は環境省の管轄、運転許可は州政府
- ジャーマン・アングスト (ドイツ人の不安(Angst))
- 行動する国民



その後の問題点

- 電気料金の高騰（電気価格の下落と、補助金の増大）
- 高圧送電線の建設の遅滞
- 政府を相手にした訴訟の増加



今後、どうなるのか

- 電気料金のさらなる値上がり
- 原発推進に戻ることはありえない
- 「ドイツほどの工業国で脱原発」という実験・野心のワクワク感



まとめ

- 「もつこと」の意味の変化
- すでに起きている変化・これから起こる変化
- 「気づいちゃった」人たちの、しなやかな抵抗